

「弟の相棒」

福岡市立高取中学校

浅井 楓

「税金とは何に使われているのだろう」

そう考えた時に、私のこれまでの知識では消費税しか出てこなかった。その為、母に

「何か身近に税金で助かっている事はないか」

と聞くと

「あなたの弟は税金に支えられて生活しているよ」

と思いがけない答えが返ってきた。私の弟は中度の知的障がい者であり、療育手帳を持っている。療育手帳とは「愛の手帳」などと呼ばれ障がい福祉サービスや各自治体・民間事業者が提供するサービスを受ける事が出来るものだ。障がいの程度により等級の区分が分かれ、受けられるサービスの適用範囲も違いがあるが、療育手帳を持っている事で様々な支援の対象となったり支援を受けやすくなっている。

弟は生まれてすぐお腹の手術をした。その後集中治療室に二週間以上入っておりその間私は退院が待ち遠しかった。しかし筋力と言葉の発達が遅れてしまい、生まれからまもなく療育センターに通っていた。また小学校に入学する前までは子ども発達支援施設に通っており、生徒三人に対して先生一人という手厚い保護で生活に必要な事を活動を通して学んでいた。小学生になった弟は、母の都合が悪い時に代わりにお迎えに行き、弟を預かって貰える放課後デイサービスに行く様になった。母が働き始めてからはデイサービスを利用する機会も増えた為九割を国や都道府県・市町村が負担してくれる福祉サービスはとても助かっている。他にも所得税の控除として二十七万円が所得金額から差し引かれたり、住民税の控除として二十六万円が控除されたりしている。更に、公共交通機関の割引などにも使われている。こんなにも税金が私達の暮らしを支えてくれている事に驚き、同時に感謝の気持ちで一杯になった。

弟は中学校になると支援学校に行くだろう。高校までの一貫でその間、専門教育や弟が生きていくために必要な事を学べる様になっている。私は、この作文を通して税金の大切さに気付く事が出来た。又、弟がここまで立派に成長できたのは、小さい時から様々な福祉支援を受けて来たからであると言っても過言ではない。そしてこれからも弟は、様々な支援を受けながら生きていく事になるだろう。そんな弟の将来を支えるためにも税金をしっかりと納めていきたい。